日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川地域の火焔型土器と雪国の文化　構成文化財一覧

番号	文化財の名称	所在地
1	信濃川	新潟市～津南町
2	信濃川上流域縄文時代　草創期遺跡群	十日町市・津南町
3	信濃川上流域縄文時代　草創期遺跡群出土品	十日町市・津南町
4	久保寺南遺跡出土品	十日町市
5	卯ノ木遺跡	津南町
6	割野遺跡	津南町
7	堂尻遺跡	津南町
8	笹原遺跡	津南町
9	上原E遺跡	津南町
10	胴抜原遺跡群	津南町
11	笹山遺跡出土品	十日町市
12	幅上遺跡出土品	十日町市
13	馬高遺跡出土品	長岡市
14	岩野原遺跡出土品	長岡市
15	栃倉遺跡出土品	長岡市
16	徳昌寺遺跡等出土品	長岡市
17	門の沢遺跡出土品	長岡市
18	堂平遺跡出土品	津南町
19	道尻手遺跡出土品	津南町
20	沖ノ原遺跡出土品	津南町
21	吉野屋遺跡出土品	三条市
22	長野遺跡出土品	三条市
23	大沢遺跡出土品	新潟市
24	秋葉遺跡出土品	新潟市
25	馬高・三十稲場遺跡	長岡市
26	栃倉遺跡	長岡市
27	笹山遺跡	十日町市
28	沖ノ原遺跡	津南町
29	堂平遺跡	津南町
30	道尻手遺跡	津南町
31	上野遺跡・同出土品	津南町
32	上野スサキ遺跡	津南町
33	八反田遺跡	津南町
34	南原遺跡	津南町
35	反里口遺跡	津南町

番号	文化財の名称	所在地
36	正面ヶ原Ａ遺跡	津南町
37	八木鼻第１号岩陰遺跡・第２号岩陰遺跡 同出土品	三条市・長岡市
38	吉野屋遺跡	三条市
39	長野遺跡	三条市
40	河岸段丘群	津南町
41	田代の七ツ釜	十日町市・津南町
42	清津峡	十日町市
43	龍ヶ窪	津南町
44	八木ヶ鼻	三条市
45	佐潟	新潟市
46	鳥屋野潟	新潟市
47	福島潟	新潟市
48	弥彦山・角田山	長岡市・新潟市
49	美人林	十日町市
50	秋山郷及び周辺地域の山村生産用具	津南町
51	秋山郷	津南町
52	桑原家保存民家	津南町
53	的場遺跡・同出土品	新潟市
54	王神祭	長岡市
55	川漁関係資料	十日町市
56	新津石油遺産（煮坪など）	新潟市
57	大沢谷内遺跡	新潟市
58	藤橋遺跡・同出土品	長岡市
59	上野原遺跡・同出土品	三条市
60	赤松遺跡・同出土品	三条市・長岡市
61	黒姫洞窟遺跡・同出土品	魚沼市
62	親柄上ノ原遺跡・同出土品	魚沼市
63	布場上ノ原遺跡・同出土品	魚沼市
64	正安寺遺跡・同出土品	魚沼市
65	原居平遺跡・同出土品	魚沼市
66	魚野川	魚沼市
67	権現堂山（上・下権現堂山）	魚沼市
68	浅草岳	魚沼市
69	守門岳	魚沼市・長岡市・三条市

火焔型土器を聖火台に――

今から5000年前の火焔型土器は、日本文化の源流を示す造形です。
2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に
火焔型土器の造形を提案しています。



信濃川火焔街道連携協議会　http://www.kaen-kaido.com/
新潟市・三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町
事務局：長岡市地方創生推進部政策企画課　TEL.0258-39-2204
〒940-8501 新潟県長岡市大手通1丁目4番10号

〔日本遺産構成文化財問合せ先〕
- ●新潟市文化スポーツ部歴史文化課　TEL.025-226-2572
- ●三条市市民部生涯学習課　TEL.0256-46-5205
- ●長岡市地方創生推進部政策企画課　TEL.0258-39-2204
- ●魚沼市教育委員会生涯学習課　TEL. 025-794-6073
- ●十日町市教育委員会事務局文化スポーツ部文化財課　TEL.025-757-5531
- ●津南町教育委員会文化財班　TEL025-765-2299

日本遺産「なんだ、コレは！」
信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化 公式WEBサイト
日本遺産　なんだ、コレは！　検索

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan　平成28年度 日本遺産魅力発信推進事業

iOS用　信濃川火焔街道 日本遺産 情報発信アプリ　Android用

JAPAN HERITAGE

日本遺産

信濃川火焔街道

「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化

GUIDE BOOK



信濃川火焔街道連携協議会　http://www.kaen-kaido.com/

「なんだ、コレは！」が新潟県初の日本遺産に認定！



2016年4月25日、新潟市·三条市·長岡市·十日町市·津南町で申請したストーリー『「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化』が日本遺産に認定されました。全国の自治体から提案のあった67件の中から新たに認定された19ストーリーの一つです。

「日本遺産（Japan　Heritage）」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化·伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

2017年4月28日、信濃川中流域の代表的な支流·魚野川が町の中心部を流れる魚沼市が新たに加わりました。



国宝　笹山遺跡出土 火焔型土器

「火焔」＋「火焔型」⊂「火炎土器」??

「火焔土器」は1936（昭和11）年、長岡市の馬高遺跡で発見された土器のみを指す、言わば火炎グループのセンター。そして、この土器と特徴を同じくする土器群が「火焔型土器」です。また、火焔型土器と同様に口縁部に特徴を持つ「王冠型土器」や「火炎B群·C群土器」なども含め、これら土器づくりの流儀が共通するグループの名前を「火炎土器（様式）」と呼びます。

タイトル／「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化

ストーリーを構成する文化財／69件　所在自治体／新潟市·三条市·長岡市·魚沼市·十日町市·津南町

1

世界有数の雪国に生まれた火焔型土器

新潟県を南から北に流れる信濃川は、総延長367km におよぶ日本一の大河である。その広大な流域を選んだ1万3000年以上前の人々は、世界に先駆けて土器づくりを始めた。縄文時代の幕開けである。特に上流域では、この時期の遺跡が全国的に見ても多く密集している。豊かな森と水に恵まれ、多種多様な動植物の宝庫となった信濃川流域には、1万年ものあいだ途切れることなく、自然と共生する縄文人の営みが見られた。

信濃川流域の縄文人たちは、8000年前に大きな環境変化に見舞われた。日本海に対馬暖流が流れ込んだ影響で、雪が多く降るようになったのである。現在に続く世界有数の雪国は縄文時代に誕生した。豪雪は縄文人の生活を阻む半面、四季の瑞々しい美しさを生み、人々の感性や発想を豊かに育んだ。

そして、この雪国から縄文時代中期の5000年前に誕生したのが「火焔型土器」である。力強く燃える焔、また見る者によっては水の流れや波などをイメージさせる意匠、造形は圧倒的である。この造形の中で「突起」を持つということが縄文土器の特徴であり、中でも特に大仰な４つの突起を持つ火焔型土器は縄文土器を代表するものである。大仰な突起は、煮炊きする具の出し入れにはかえって邪魔になる。つまり現実の用途にかなった器ではなく、縄文人の世界観から紡ぎだされた観念を表現した器なのである。古今東西の焼物の中で突起を持つものは、火焔型土器に代表される日本の縄文土器だけであり、世界の中で際立った存在である。縄文文化は、日本文化の源流であり、その意味で火焔型土器は浮世絵や歌舞伎とともに、日本文化そのものなのである。

この火焔型土器の美を最初に発見したのは、芸術家・岡本太郎であった。「縄文土器の荒々しい、不協和な形態、紋様に心構えなしにふれると、誰でもドギッとする。なかんずく爛熟した中期の土器の凄まじさは言語を絶するのである。」の書き出しで始まる『縄文土器論』を記した太郎は、火焔型土器を見て「なんだ、コレは!」と叫んだという。そして、「火焔土器の 激しさ 優美さ」の言葉も残している。太郎を驚愕させた火焔型土器はほぼ新潟県域にしかなく、その本場が信濃川流域である。それはまさにこの地が「火焔土器のクニ」であり、山、川、海を通じた周辺地域との交流点であったからである。



芸術家・岡本太郎

2

火焔型土器のふるさと新潟

火焔型土器を作った人々のムラは、信濃川流域の河岸段丘上にあり、その多くは湧水の近くに作られた。中央の広場を囲むように50軒ほどの竪穴住居が配置された直径100mほどの「環状集落」である。祭祀の場にもなった広場を中心に、馬蹄形に竪穴住居がめぐり、住居と広場の間には穴を掘って死者を葬った墓地が見つかっている。さらに木の実などを保存した貯蔵穴が並び、ムラのはずれには使われなくなった道具などを廃棄したゴミ捨て場、獣を追い込んで捕えた落とし穴もある。そのゾーニングは、整然として極めて計画的である。

縄文時代中期の遺跡が信濃川流域では400箇所以上も発見されており、この地のムラの規模と密集度が、日本有数であったことがわかる。また、これらの遺跡からは、火焔型土器と同時期の土偶やヒスイの大珠など豊富な種類の祭祀の道具が多量に出土しているが、全国的にはあまり多く出土せず、この流域の縄文文化の特徴となっている。現在でも信濃川流域には、清津峡や八木ヶ鼻、弥彦山・角田山、河岸段丘、潟湖など、縄文時代からの景観が手つかずのまま残されている。縄文人が暮らしたムラの跡に佇めば、5000年前と変わらぬ風景を追体験できる。



馬高遺跡出土 土偶



信濃川



馬高・三十稲場遺跡

3

縄文時代から今に続く雪国文化



編衣（アンギン）

火焔型土器を生み出した縄文人の暮らしは、雪国の知恵の中に垣間見ることができる。雪国の民具がその一つ。江戸時代に鈴木牧之が『秋山記行』で紹介した「編衣」（アンギン）は、植物の繊維を用いて編んだ衣類として知られる。日本各地の縄文土器の底にアンギンの編み跡が確認されるなどしているものの、生活の中で近年まで使われ続けていたのは、秋山郷をはじめとする信濃川流域だけである。自然と共生し、雪国の自然資源を巧みに利用した知恵と技術が、この地では現在まで続いている。雪国の文化を何世代にもわたり後世に伝えているこの地域の人々は、まさに今も縄文文化の知恵の中で暮らしているのである。

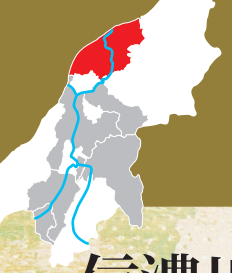
また、信濃川とその支流は、縄文時代から現在にいたるまで、豊かな漁場となっている。ひろがる広葉樹林からの養分が信濃川に入り、魚類を育んでいるためである。信濃川水系で生まれた鮭は外洋を回遊し、ふるさとの川へ産卵に戻る。それは縄文時代から今も変わらない。本格的に雪が降り始める前に信濃川を遡上する鮭は、縄文人にとっても、重要な食料資源のひとつであった。火焔型土器には鮭を煮炊きしたと思われる焦げ跡が残っている。信濃川河口に近い新潟市的場遺跡出土品も、古代に鮭漁が盛んだったことを物語っており、古代以降、鮭は越後の国の税目に挙げられていた。信濃川流域の各地域には川漁に関わる民具が伝えられている。



自然資源を巧みに利用して暮らしてきた縄文人は、矢じりなど狩りの道具をつくる時などに、天然アスファルトを接着剤として用いる知恵も持っていた。天然アスファルトは日本海側に多く産出され、煮坪など信濃川沿いの丘陵で今でも湧出している。

信濃川流域には縄文時代に起源をもつ文化が息づいている。縄文の昔から人々を養ってきた山・川・海の幸、加工や保存の知恵。地方色豊かな郷土料理、酒や味噌・醤油など発酵食品の製造技術。あるいは、豪雪環境が生み出したアンギンや火焔型土器の技を継承するような、モノづくり、習俗など。

そして雪国を象徴する火焔型土器は、モニュメントとしても信濃川流域に多数あり、現代の暮らしの中に生きている。



「なんだ、コレは！」縄文めぐり

新潟市

おもな構成文化財

信濃川下流域の縄文人は、水辺が狩猟・採集のフィールドだった。

日本海に注ぐ信濃川の河口近くの縄文人は、どんなふうに暮らしていたのだろう。
淡水海水の魚介類、潟に集まる動物や鳥、丘陵に湧く不思議な燃える水。
広大な越後平野で、縄文生活を想像してドキドキ。



秋葉遺跡出土品

構成文化財 24

1998年と1999年の発掘調査で竪穴住居が発見された秋葉遺跡。集落跡の斜面は縄文人のゴミ捨て場になっていたらしく、非常にたくさんの土器片が出土しました。火焔型土器が盛んになる縄文時代中期中頃のものが多く、隆線文ではなく縄文が施された王冠型土器が復元されています。



福島潟

構成文化財 47

福島潟は約262haの面積を誇る、越後平野最大の潟湖です。浅い水域にヨシ帯が島状に広がり、日本の原風景を思わせます。砂丘列の発達によって内陸に取り残された水域で、江戸時代からの開墾、干拓が進みましたが、現在、国の天然記念物オオヒシクイの越冬地として、またオニバスの北限の自生地として自然環境が保全されています。



佐潟

構成文化財 45

砂丘列の間に、砂丘からの湧水がたまってできた淡水湖。周辺に散らばる縄文遺跡から、石のヤジリなど狩猟の道具が発見されており、縄文人は水辺に集まる動物や大型の水鳥を狩りの対象にしていたことがうかがえます。現在も動植物の種類は豊富で、1996年にラムサール条約湿地に登録されています。

的場遺跡・同出土品

構成文化財 53

信濃川河口の砂丘の上にある奈良～平安時代の遺跡。土器や漁具などの遺物が、大変よい状態で大量に出土しました。水産物の捕獲や管理基地になっていたようで、出土した木簡から、ここで捕って加工をした鮭が、税として都へ送られるなどしていたことがわかります。

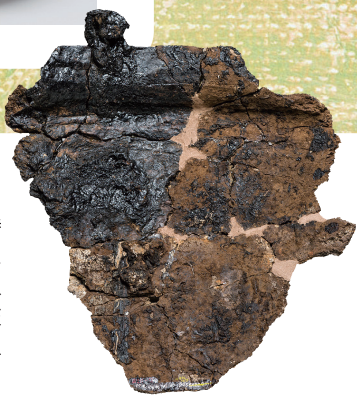


大沢遺跡出土品

構成文化財 23

大沢遺跡は、信濃川下流の角田山麓に広がる縄文時代の集落跡。特に縄文時代中期初め頃の遺物が多く、典型的な火焔型土器も出土しています。ユリあるいはヒガンバナ、ゼンマイ、ヤマノイモ、ソバなどの花粉や胞子も検出されました。当時の人々は私たちの想像以上に、さまざまな植物を食べていたのかも。

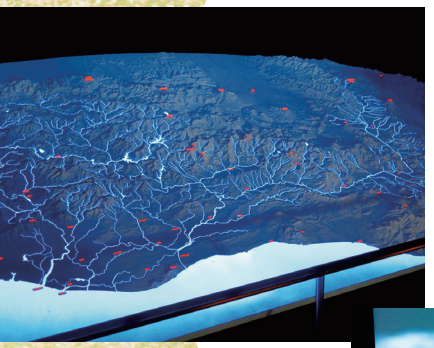




大沢谷内遺跡

構成文化財 57

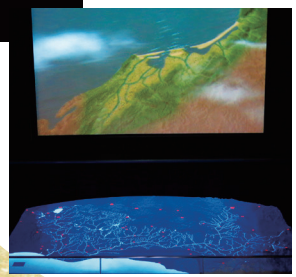
上層は飛鳥時代から鎌倉・室町時代。下層は縄文時代晩期の集落跡。下層からはアスファルトの塊やアスファルトの付着した土器が出土しています。縄文人は、湧出した原油から揮発成分が失われてできる〝天然のアスファルト〟を、ヤジリを柄にくっつけたり、土器などを補修する接着剤に利用していたのでした。



新潟市歴史博物館（みなとぴあ）

信濃川河口のほとりに、レトロな風情でたたずむ港町らしい博物館。「構成文化財No.1 信濃川」関連の資料や「同No.53 的場遺跡・同出土品」も保管・展示されています。

所 新潟市中央区柳島町2-10　開 9:30～18:00（10月～3月は17:00まで）
休 月曜日（祝日休日の場合その翌日）、祝日休日の翌日（土日の場合は火曜日）、年末年始（12/28～1/3）など
料 常設展 一般300円／高校・大学生200円／小中学生100円
※小中学生は、土日祝日 常設・企画展とも無料 ※企画展観覧料は、展覧会ごとに異なります
問 025-225-6111





構成文化財
展示施設

たたずむ足下に、眠っている歴史を感じたくて。

広大な平野。水をたくわえた潟。大昔の人々も眺めたかもしれない風景がある。
埋もれるモノ、目覚めたモノに会いに行く。



撮影者　廣崎節雄

新潟市文化財センター（まいぶんポート）

各種開発事業や史跡整備などにともなう発掘調査、出土遺物の調査研究、収蔵保管、展示活用を行うための施設。「構成文化財No.24 秋葉遺跡出土品」「同No.53 的場遺跡・同出土品」「同No.57 大沢谷内遺跡」出土品もここに収蔵されています。

所 新潟市西区木場2748-1　開 9:00～17:00
休 月曜日、祝日休日の翌日、年末年始（12/28～1/3）など
料 入館無料（体験メニューは一部有料）　問 025-378-0480



周辺の
文化遺産・
観光施設

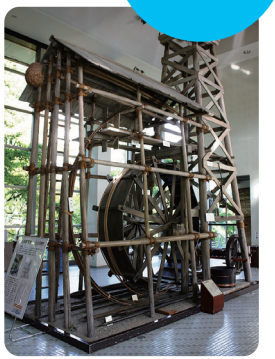
石油の世界館
（石油の里公園内）

江戸時代初期に発見された新津油田は、明治時代後期から大正時代にかけて日本一の産油量を誇り、日本の産業・経済の発展に大きく貢献しました。石油採掘の歴史などを展示・紹介する「石油の世界館」は、周囲に縄文遺跡も点在する、自然あふれる「石油の里公園」の中にあります。

所 新潟市秋葉区金津1172-1
開 9:00～17:00（入館は16:30まで）
休 5月・11月を除く毎週水曜日
（祝日休日の場合その翌日）、
年末年始（12/28～1/3）
料 入館無料（2階企画展示室は有料の場合あり）
問 0250-22-1400









的場史跡公園

古代越後国の漁業や流通に関わる、重要な「的場遺跡」の出土品（複製）などを展示。墨書土器、奈良時代の硬貨「和同開珎」を見ることができます。

所 新潟市西区的場流通1-2-1
問 025-264-7661（新潟市西区役所建設課）

弥生時代にタイムスリップ！ 2000年の時を超え、よみがえった弥生の丘。

古津八幡山遺跡 歴史の広場

弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落と、新潟県内最大規模の古墳からなる「古津八幡山遺跡」。遺跡一帯が復元整備された「歴史の広場」では、弥生時代の竪穴住居、環濠・方形周溝墓・前方後方形周溝墓など、弥生時代のムラの様子を体感できます。



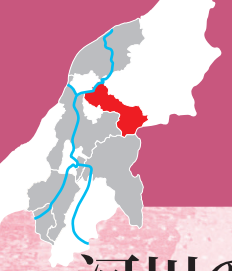
遊びながら学べる！ 広場で弥生を体感したら、展示館で楽しく勉強。



史跡 古津八幡山遺跡 弥生の丘展示館

「古津八幡山遺跡」から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器を展示。復元模型、アニメーションや考古イラストによる、小中学生にもわかりやすい展示です。隣接して「新潟市新津美術館」、徒歩圏内に「新潟県立植物園」や「新潟県埋蔵文化財センター」もあり、見どころ満載。

所 新潟市秋葉区蒲ヶ沢264　開 10:00～17:00
休 月曜日（祝日休日の場合その翌日）、年末年始（12/28～1/3）
料 入館無料（体験メニューは一部有料）　問 0250-21-4133



「なんだ、コレは！」縄文めぐり

三条市

おもな構成文化財

河川の合流点。巨大岩壁の目印。縄文ムラ大集落のモノ語り。

日本では糸魚川にしかないヒスイを、運んできたのはダレ？ 険しい峠道を越えて伝わったことはナニ？
縄文の旅人たちはランドマークを目指した。
交わりも、にぎわいも、ドキドキは八木ヶ鼻に集まっていた！





構成文化財 37

八木鼻第1号岩陰遺跡・第2号岩陰遺跡　同出土品

八木ヶ鼻にある浅い洞窟に縄文土器を作り始めた頃の人々が暮らしました。岩陰の壁面に岩塩が含まれています。巨大岩壁の下の岩陰に暮らした大昔の人々を想像してください。

八木ヶ鼻

構成文化財 44

信濃川の支流、五十嵐川の河岸にそびえる高さ180mのダイナミックな絶壁は、2万年前からこの流域のランドマークになっていました。八木ヶ鼻自体に岩陰遺跡があるだけでなく、対岸には大規模集落の長野遺跡が。また、旧石器時代の遺跡も、周辺に多く点在します。まさに縄文時代と変わらぬ風景を追体験できます。





長野遺跡出土品

構成文化財 22

大量の土器と石器、火焔型土器や王冠型土器、ヒスイの大珠（首飾り）も出土しています。発掘された土器の中には、お隣の福島県会津との共通点がうかがわれる様式のモノも。下田から只見へ至るルート〝八十里越〟で結ばれていた、交流拠点のムラのにぎわいが数々の出土品から感じられます。



長野遺跡

構成文化財 39

五十嵐・守門・駒出の3河川の合流点。五十嵐川をはさんで八木ヶ鼻を仰ぎ、遠くに粟ヶ岳や守門岳を望む、縄文時代中期から後期の大集落跡。1989年の発掘調査で、竪穴住居30軒以上、フラスコ状土坑17基を含む多数の土坑・柱穴などが確認されています。

吉野屋遺跡

構成文化財 38

明治時代から知られた、縄文時代中期から後期の大きなムラの跡。谷に面した丘陵にある遺跡は1969年に発掘調査が行われ、たくさんの遺物が出土しました。その後の発掘調査でも柱穴などが多数発見されています。今は畑になっていますが、地中には縄文人の宝物が眠っていることでしょう。



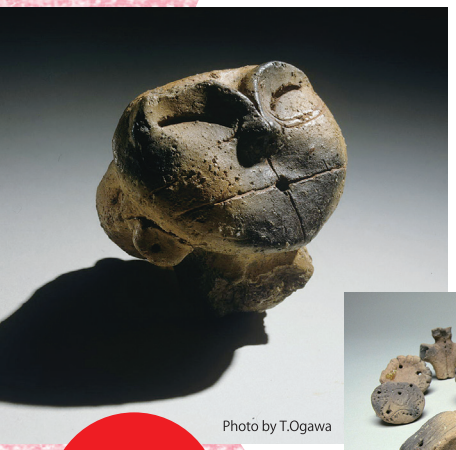


Photo by T.Ogawa

吉野屋遺跡出土品

構成文化財 21

火焔型土器や王冠型土器など多様な土器が出土しました。火焔型土器とともに注目されているのが100体以上もの土偶。その数は県内最多級で他の遺跡の出土量をはるかに超えています。吉野屋の大規模な拠点集落に、周辺集落から大勢の縄文人が集まり、「土偶送り」の儀式がまさにこの場所で行われていたのかも。


Photo by T.Ogawa

構成文化財
展示施設

三条市歴史民俗産業資料館

県内最多級の出土量を誇る「構成文化財No.21 吉野屋遺跡出土品」の土偶は、ニコニコ笑顔が多く、眺めていると気持ちがホッコリ和らぎます。上野原遺跡の土器や呪術的な遺物、弥生時代の鉄斧、古墳時代の副葬品から、モノづくりのまちらしい室町時代の鉄鍋や現代の鍛冶資料までいろいろ。資料館の建物は国登録有形文化財。

所 三条市本町3-1-4　開 9:00～17:00
休 月曜日、毎月末日（土日祝日の場合は開館）、年末年始
料 入館無料　問 0256-33-4446


Photo by T.Ogawa



にぎわいがもたらした文化を求めて。

発展のチカラは、活発な移動と交流。発想、情熱、冒険、地の利。
縄文から現代へつながるDNAがここにある。




Photo by T.Ogawa

三条市下田郷資料館

火焔型土器、王冠型土器、大珠や八十里越によって結ばれた下田郷と会津の関係の深さを示す「構成文化財No.22 長野遺跡出土品」を見るならここへ。ほか、旧石器時代から室町時代までの出土品などが、3万年をさかのぼる下田郷に生きた人々の暮らしを伝えます。

所 三条市飯田1029-1（ウェルネスしただ内）　開 9:00～16:30
休 年末年始　料 入館無料　問 0256-46-5110



周辺の
文化遺産・
観光施設



三条鍛冶道場

古くから「金物のまち」として知られる三条市。「三条の金物」は、江戸時代には特産品となり、2009年には「越後三条打刃物」として国指定伝統的工芸品に指定されました。鍛冶職人が手ほどきする刃物づくりの体験講座へGO!

所 三条市元町11-53　開 9:00～17:00（体験受付は15:30まで）
休 月曜日（休日の場合は開館・翌日休）、年末年始　問 0256-34-8080

●常設展示・常設講座 ●包丁研ぎ体験 ●和釘づくり体験
●ペーパーナイフづくり体験 ●その他ものづくり体験

※体験メニューと詳細については、お問い合わせください。

吉野屋　石動神社（石川雲蝶彫刻）

幕末から明治の名工石川雲蝶。晩年の豪快にして繊密な作品が残されています。


欄間　蜘蛛退治

所 三条市吉野屋甲3885
料 拝観料300円
問 0256-34-5605（三条市経済部営業戦略室）



スノーピーク ヘッドクォーターズキャンプフィールド

自然の地形をそのまま生かしたキャンプフィールドで野遊び体験。スタッフのサポートはもちろん、レンタル品も充実しているので、キャンプ初心者でも安心です。現代の縄文人になれるかも!?

所 三条市中野原456　問 0256-41-2500



道の駅　漢学の里しただ

国道289号沿い、日本遺産「八木ヶ鼻」の近くにある道の駅。農家レストランや農産物直売所などが充実。隣接し三条市の名誉市民で大漢和辞典編纂の偉業を成し遂げた諸橋轍次博士の生家・記念館。下田郷の食と文化の施設で、ひと休み。

所 三条市庭月451-1　問 0256-47-2230

しょっぱい湯にひたりつつ、
山塩料理と縄文風景を満喫





越後長野温泉 **嵐渓荘**（国登録有形文化財）・八木ヶ鼻温泉 **いい湯らてい**

八木鼻第1号岩陰遺跡の壁面には、岩塩（山塩）が含まれていて、かつてそこで暮らした縄文人も利用したと考えられます。そんな山塩の恵みを堪能できるのが、下田郷に湧く二つの温泉です。「越後長野温泉 嵐渓荘」では山塩の湯を。「八木ヶ鼻温泉　いい湯らてい」の露天風呂から眺める日本遺産「八木ヶ鼻」に沈む夕日は絶景です。

所 三条市長野1450　問 0256-47-2211（越後長野温泉 嵐渓荘）
所 三条市南五百川16-1　問 0256-41-3011（八木ヶ鼻温泉 いい湯らてい）

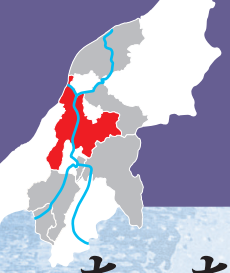
縄文のDNAだ！
現代に続く「モノづくり」を体験！


「燕三条 工場の祭典」実行委員会

燕三条　工場の祭典

金物や洋食器のまち燕三条。開催期間中、地域の工場がいっせいに開放され、世界レベルのモノづくりを体感できます。

所 三条市と燕市の全域および周辺地域
開 2018年10月4日（木）～7日（日）
問 0256-34-5609（三条市経済部 商工課）



「なんだ、コレは！」縄文めぐり

長岡市

おもな構成文化財

たった一つだけの火焔土器は信濃川中流域で発見された。

燃え上がる炎か、波立つ川面か、はたまた湧く雲か。
その土器のモチーフは他にない独特の装飾性を持っていた。
初めて火焔型土器が発見されたのは長岡市の馬高遺跡。
世界でも類のない感動に、きっとドキドキ。

馬高遺跡出土品

構成文化財 13

命名の由来となった元祖〝火焔土器〟をはじめ、火焔型土器や王冠型土器、多様な石器類、土偶（ミス馬高）や石棒などが出土。火焔土器とは1936年に馬高遺跡で発見された1個の土器に付けられたニックネームで、他の類似した土器は火焔型土器と呼んで区別されています。なお、長岡市の火焔型土器（構成文化財No.14 岩野原遺跡出土品他）は、大英博物館の常設展にも展示されました。





栃倉遺跡出土品

構成文化財 15

信濃川の支流の一つ刈谷田川の右岸にある栃倉遺跡。火焔型土器を含むたくさんの縄文土器、石鏃や石斧などの石器類が出土。竪穴住居の床面や柱穴に、意図的に埋めたと思われる状態で発見された土偶も3例あり、当時の信仰の特殊な事例とされます。

徳昌寺遺跡等出土品

構成文化財 16

信濃川左岸の段丘、与板地域の古刹・徳昌寺の境内に広がる遺跡からは、特に火焔型土器を含む縄文時代の中期前半の土器が豊富に出土しました。火焔型土器を作っていた当時の竪穴住居跡も発見されています。





藤橋遺跡・同出土品

構成文化財 58

藤橋遺跡は今から約3000年前の縄文時代晩期の大集落跡。数回にわたる発掘調査や出土品から、多数の高床式の掘立柱建物が建ち並ぶ、地域の中心的な集落だったと想像されます。土器のほか、天然アスファルトが付着した石鏃が多く出土。石油関連資源の利用があったことを裏付けています。

王神祭

構成文化財 54

信濃川沿いにある金峯神社で、毎年11月5日に行われる年魚行事。信濃川で捕れた鮭を、神主が直接手でふれることなく鉄箸と包丁で調理、鳥居の形に整えて神前に供えます。古くから鮭が重要な資源だったことを物語る貴重な儀式です。





馬高・三十稲場遺跡

構成文化財 25

信濃川左岸の段丘上にある、縄文時代中期から後期の大規模な集落跡。竪穴住居が環状にめぐる、信濃川中流域の典型的な縄文集落です。遠藤沢と呼ばれる小さな沢をはさんで、東側に縄文中期の馬高遺跡、西側に縄文後期の三十稲場遺跡があります。〝火焔土器〟の発見地として全国的に知られています。

縄文も、江戸も、平成も、積み重ねていくまち。

縄文時代やそれ以前からの跡。幕末を駆け抜けた生きざま。伝統を守る風景。
楽しさの先に深さが見つかる、そんな感動の連続を。

構成文化財
展示施設



長岡市馬高縄文館

元祖〝火焔土器〟の発見地「構成文化財No.25 馬高・三十稲場遺跡」に隣接。世界で唯一の火焔土器を含む「構成文化財No.13 馬高遺跡出土品」をはじめ、「同No.15 栃倉遺跡出土品」「同No.16 徳昌寺遺跡等出土品」など、長岡市内各地の縄文遺跡から出土した遺物を多数展示。



所 長岡市関原町1-3060-1
開 9:00～17:00（入館は16:30まで）
休 月曜日（休日の場合は開館・翌日休）、年末年始
料 200円
（高校生以下無料、20名以上の団体150円）
問 0258-46-0601

藤橋歴史の広場

「構成文化財No.58 藤橋遺跡・同出土品」が見られる遺跡公園。展示施設「ふじはし歴史館」の他、発掘した柱穴群を見学できる「遺構展示館」、特徴的な住居を復元した「縄文の家」があります。

所 長岡市西津町4157-1　開 9:00～17:00
休 月曜日（休日の場合は開館・翌日休）、冬期間（12/1～3/31）
料 入館無料
問 0258-46-8441







長岡市立科学博物館

長岡市の自然と歴史を学べる総合博物館。考古資料は旧石器時代から中世の石器や土器、重要文化財の小瀬ヶ沢洞窟・室谷洞窟出土品などを見ることができます。

所 長岡市幸町2-1-1（さいわいプラザ内）　開 9:00～17:00
休 第1・3月曜日（祝日の場合は翌日休）　料 入館無料　問 0258-32-0546





新潟県立歴史博物館

火焔土器のふるさと関原の丘陵にあり、新潟県内各地の火焔型土器の常設展示が目を見張ります。

所 長岡市関原町1丁目字権現堂2247-2
開 9:30～17:00（入館は16:30まで）
休 月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日休）、年末年始
料 一般510円、高校・大学生200円、中学生以下無料
問 0258-47-6130



長岡市三島郷土資料館

木と道具と匠たちをテーマにした資料館。「構成文化財No.17 門の沢遺跡出土品」の火焔型土器を展示。

所 長岡市上岩井1260-1（長岡市みしま会館内）
開 9:00～17:00　休 月曜日、年末年始
料 大人300円、小中学生150円　問 0258-42-2222

周辺の
文化遺産・
観光施設

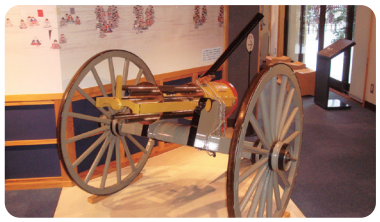




醸造のまち摂田屋

昔から醸造文化が栄え、今も味噌・醤油・日本酒の老舗の蔵が密集している摂田屋地区。散策すればあちこちから麹の香りが漂ってきます。各蔵の見学も予約すれば可能です。

問 0258-32-1187（長岡観光コンベンション協会）





河井継之助記念館

幕末の長岡藩家老・河井継之助の生涯を紹介。西国遊歴の旅日記「塵壺」、ガトリング銃のレプリカ、継之助を主人公にした司馬遼太郎の小説「峠」の自筆原稿など、ゆかりの品々を展示しています。

所 長岡市長町1甲1675-1　開 10:00～17:00（入館は16:30まで）
休 年末年始
料 大人200円、高校・大学・障害者・介助者150円、小中学生100円（小学生未満無料）
※20名以上団体は割引料金　問 0258-30-1525

信濃川が舞台！
壮大すぎるスケール



長岡まつり大花火大会

名物の正三尺玉をはじめ、フェニックス、天地人花火など、バラエティーに富んだ長岡花火が、信濃川の水面を彩ります。毎年8月2、3日に開催。

問 0258-39-0823（長岡花火財団）

県内最多16蔵
自分好みの
1本を



日本酒

豊富な雪解け水を集めて流れる信濃川。その清冽な水が育む酒米。
そして越後杜氏の技が美酒を醸しだす由縁です。

問 0258-32-1187（長岡観光コンベンション協会）

縄文な逸品！ 老舗和菓子屋と博物館とコラボ

大和屋「悠かなる縄文」

火焔型土器のカケラから型をとった干菓子は、縄文人も食べていたドングリの粉入り。大和屋本店、駅ビルCOCOLO長岡越後のれん街、新潟県立歴史博物館で購入可。

問 越乃雪本舗 大和屋
TEL 0258-35-3533 長岡市柳原町3-3





藤岡みなみ

藤岡みなみ
タレント。縄文時代の他、
パンダの生態や歴史にも詳しい。
藤岡みなみ＆ザ・モローンズのボーカル。
公式ブログ：熊猫百貨店http://ameblo.jp/373panda/

藤岡みなみ 対談 小林達雄



小林達雄
考古学者・信濃川火焔街道連携協議会顧問
國學院大學 名誉教授
農と縄文の体験実習館 名誉館長
新潟県立歴史博物館 名誉館長

知っているようで知らない縄文時代。縄文人の世界観にふれる！

縄文時代研究の第一人者である小林達雄先生と、
縄文時代が好きになってまだ3年、自らを縄文初心者というタレントの藤岡みなみさん。
そんなちょっとデコボコな関係のお二人に、縄文時代のアレ、コレ、モノの魅力について語り合っていただきました。

縄文時代って、どんな時代

藤岡：縄文時代はどんな時代か、いろんな解釈もあると思います。**私はまず情熱的だなって**思って。そこから引き込まれていった口です。**何だかココロが豊かな時代かなって**憧れています。小林先生はどのようにお感じですか？

小林：縄文時代を情熱的だと思うのは、縄文をちょっと離れた位置から見る人の思いかもしれないね。僕はもっと**縄文と取っ組み合いをしている**わけ。そうすると情熱的とまでいかない。なぜ情熱的か、何がそう思わせるのか。そういうモノを見極めていくのが、僕たちの目の付け所というか。

藤岡：時代の特徴とか、暮らし方とかどんなだったのでしょう。

小林：縄文時代を象徴するのが縄文土器です。土器は粘土を見つけて生成して、水を加えて柔軟性を確かめながらこねる。パン作りに似ています。

藤岡：火焔型土器、私も作ってみましたが、土器作りは繊細ですよね。

小林：粘土をこねたら寝かして熟成させ、一塊で底を作り、底から壁を立ち上げていく。全体の形ができたら文様を付け、乾燥させて焼き上げるわけです。

藤岡：手間や時間がかかる**土器作りを始めたことが、縄文時代の始まりであり、アイデンティティー**ということですね。

小林：そうです。これは定住しないと、無理な話で、1万3千年以上前のことです。この時、日本列島で世界的に最も古い土器が誕生した。それは**「人類初にして、最大の革命」**なんです。つまり、**土器が出てきた背景には、定住的な生活が軌道に乗った**ことを表しています。

藤岡：そんなに昔のモノが、今残っているということもすごいし。縄文時代を特徴づける土器を見れば、そのときの暮らしがわかるんですね。へェ〜、おもしろい。

ドキドキする、縄文文化

藤岡：本当に土器ってすごいと思うんですけど。縄文土器っていうと、火焔型土器を思い浮かべる人は多いと思うんです。これって他の土器と比べてすごいとこってどこですか？

小林：今だったら備前焼や萩焼があるように、縄文時代も所変われば品変わるで、それぞれ地方ごとに特徴的な土器様式が発達するんです。方言のように。

藤岡：他の地域と比べたときの自分たちのプライドや個性。そういう証の表現場所だったんですかね。

小林：要するに自らのアイデンティティー主体性を縄文土器に求めているような。だから地方ごとに違うし、時代によっても違うんですね。その個性に目が奪われる一方で、普遍的な特徴もあります。

藤岡：それは何でしょう？

小林：縄文土器の縁に立ち上がる突起です。縄文土器は器（うつわ）だから容量があれば十分なわけです。けれども縄文土器は突起としての縁飾りが出てくる。

藤岡：この縁の突起って使いにくいですよね。

小林：器としては邪魔です。ですがそれを作る。しかも、手が込んでいるんです。運び込んだ粘土をたくさん使って、時間をかけて作る。だけど厄介モノというのが矛盾しています。この矛盾は、古今東西の焼物の中で他にない、縄文土器だけの特徴です。



藤岡：合理的じゃないというか、何か意味があるというか。精神的に大事なモノだったのかなって思いました。

小林：器としては無用の長物なのに付けている。相当強い意思が働いていますよ。

藤岡：そこにグッときますね。以前新潟に行ったときに、この土器でとん汁を作ってもらって食べたことがあるんです。そのときすごく特別な食べ物、〝祝福されたとん汁〟みたいに感じられて。お玉とかぶつかって邪魔だけど、でもあると嬉しいというか。これちょっと特別感わかるかもって、思いましたね。

小林：それはとても重要なことだね。というのは、粘土は柔軟性があるから、成形は自由自在にできますね。それは縄文人だけじゃなくて、土器を作る世界中の人たちが持っていた共通の性質です。ところが〝**粘土の柔軟性に悪ノリ**〟と言ったら語弊があるけど、〝**一番ノリにノッたのが縄文人**〟なんです。

藤岡：やれるんだから、やっちゃえ〜みたいな。突起の数も決まっていたりするんですよね、ビックリしました。計算された部分もあるんだと思って。

小林：突起はだたくっ付ければいいのではなく、バランスの問題もあります。だから偶数が基本で、火焔型土器をはじめ4つが普通。縄文時代と並行する時代には、朝鮮半島や中国大陸、台湾、樺太でも

土器を作って使っていましたが、突起はないんです。要するに縄文土器しか突起は持っていません。

藤岡：やっぱり**突起がこだわり**なんですね。

小林：だから意味があった。意味がなければ付けないわけです。火焔型土器の突起は原則4つだけど、会津だけは同調しないで3つです。彼らは似たような様式を作りながら、突起で主体性を主張するんですね。

藤岡：何か気の強さを感じます。**カウンターカルチャー！**突起の数で表現みたいな！

小林：それで**岡本太郎はこの造形の猛々しさ、雄大さにひっくり返る思いがしたと驚くわけ**です。芸術家としての感性に響いたわけですね。だけど、もっと具体的に火焔型土器を理解しようとするならば、もっと深く、違うところに目をつけなければなりません。

藤岡：どこですか？

小林：例えば突起は雄鶏の鶏冠、「鶏頭冠」というあだ名で呼んでいます。この鶏頭冠が必ず付く。そして鶏頭冠が付いた水平な口縁に、鋸歯状のフリルが付きます。さらに鶏頭冠の胴っ腹に、象徴的なハート形の窓が開くんです。

藤岡：ハート形って、縄文時代にはもうあったんだ。

小林：他にも「トンボ眼鏡」や「袋状突起」があります。これらは必ずどの火焔型土器にも付きます。ということは、ただ飾り立てているのではなく、伝えたいモノ、そこには**彼らの世界観から紡ぎ出された物語が秘められている**のです。新潟から津南、信濃川上流から下流まで、そこで作られていた火焔型土器は、全部この約束を守っているという面白さもあります。

藤岡：きっと何かをデフォルメして作って。伝えたい思いは何か、我々にとっては〝謎解き〟ですね。

小林：もう一つ面白いのは、この火焔型土器だけでは不十分なんですね、彼らには。火焔型土器を作っておきながら、兄弟分の「王冠型」も必要としたことです。

藤岡：確かに似ていて、兄弟分というのはわかります。そこにもまた謎が…。

小林：つまり二つに共通する様式があるんです。彼らの土器様式、流儀には二つが必要。例えば**表と裏、光と影、昼と夜など二つを区別して認識する〝二項対立〟という考え方**です。そういうモノをわざわざ作り、表現した。私はこれを**「二つで一つの縄文思想」**と呼んでいます。

藤岡：**縄文土器を見れば縄文哲学みたいなものが見えてくる**というか。何か縄文時代を連想する時に、原始人みたいな生活を浮かべる人も多いと思うし。私も最初はそうでしたけど、土器を見てみると哲学はあっただろうなと。意思も強いし、感情もたくさんあったことを感じると、身近に思えて何か友達になれそうな感じがしてきます。それで土器もですけど、土偶を見るとそのシンパシーというか、共感するところはさらに強まります。で、やっぱり新潟で土偶といえば「ミス馬高」。ほっぺがちょっとポッとなっているような、可愛らしいですよね。表情もありますし。土偶の何かキャラクターというか、デフォルメされているところに引き付けられます。

小林：デフォルメというと、実は彼らは土偶を作るとき、人の顔から離そう離そうとしているんです。

藤岡：やっぱり。だって火焔型土器を見ると、この技術力だったらもっと写実的な人間の人形を作れると思うし、その方がわかりやすいんじゃないかと思うんです。だけど、そうじゃない。

小林：だから僕は精霊だと思うんだよね。精霊はその辺りにいるんですよ。私達は何かに見られているような気がして後ろを振り返ると、その影が消えるとか。その存在を意識して土偶を作るんだけど、顔を付けると人になる。だから最初の土偶は顔がないんです。

藤岡：そうなんですね。

小林：何千年も顔のない土偶を作り続けて、火焔型土器の時代になって顔が付くようになるんです。誰かが自制心をかなぐり捨てて、顔付けちゃった。そうすると不承不承だけれど、作られた土偶が一人歩きして、顔が作られていくんです。

藤岡：人間じゃないというお話にも驚いたんですけど、動物でもないわけですよね。ということは、わざと存在しないモノを作った。

小林：土偶のような顔の人はいないですよ。だから作っちゃたんです。やがて顔が付くようになると、土偶は壊されるモノが出てきます。またそれも意味があるわけです。

藤岡：片脚を取ったりしたものも多いですね。そこに何か意味があるし。そこが文化というか。

小林：五体満足のモノは殆どありません。土偶は縄文人の弓矢とか槍、そういう手を使って作業するモノとは別の種類の道具です。頭で使う道具、それを私は「第二の道具」と呼んでいます。

藤岡：**使いやすいとかじゃない。作りたいんだという思い**、そこがいいですよね。

小林：火炎土器様式は縄文時代の中期に向かってぐんぐん活気づいて、一つの頂点に達した時代です。

藤岡：**縄文バブル**ですね！

小林：そのときの火焔型土器の広がりは、面白いことに今の新潟県に重なります。**今の県の線引きは古代の越後であり、それは「火焔土器のクニ」が下敷き**になっているんです。そしてこの信濃川流域を中心とした文化圏をつくっていったんです。

藤岡：やっぱり川がある場所は文明が発達しやすいとかあるんですか？

小林：日本中に川はありますよね。ただ火焔型土器の文化圏は、信濃川流域により濃厚な文化の営みがありました。新潟県境でそれがピタッと止まります。そしてちょうど新潟県域の中に収まるんです。私たちはこの火焔型土器を中心とした越後特有の文化、そして**縄文時代を象徴する文化、これを発信していこう**ということで、文化庁の「日本遺産」プロジェクトに応募して、採択されたんです。

藤岡：土器の特徴で地域が限られていたというのは、私も新潟に行って火焔型土器を前にしてわかりました。コレは俺たちのだって、自慢したくなる気持ちがすごく感じられる土器ですよね。

小林：縄文土器には器として必要のない突起を付ける。これは他の周辺地域、大陸には全く見られないモノです。それだけ縄文文化というのは、情緒的なんです。だからこそ藤岡さんの情熱的と感じたという、心の琴線に響くようなイメージは、皆さん「なるほど」と納得してくれると思いますよ。





撮影協力：國學院大學博物館



「なんだ、コレは！」縄文めぐり

魚沼市

おもな構成文化財

交錯する河川。豊かな川の恵み。魚沼の地は縄文人の交流の場だった。

信濃川中流域の支流の一つ、魚野川の河岸に形づくられた大規模な縄文ムラ。
山と川が育んだ現代にも通じる肥沃な大地には、山を越え、川沿いを歩き、はたまた舟を漕ぎやってきた縄文人たちの文化コミュニティーが構成されていた…。悠久のドキドキに思いを馳せる。

浅草岳

構成文化財 68

越後三山国定公園に指定されている浅草岳は、標高1586mの第四紀火山です。南側の麓には、「構成文化財61 黒姫洞窟遺跡・同出土品」をはじめ、縄文遺跡や洞穴・岩陰が分布しています。縄文人にとっては、ムラとムラを結ぶランドスケープのメルクマールであったと考えられます。



正安寺遺跡・同出土品

構成文化財 64

信濃川支流の一つ魚野川流域（信濃川中流域）に残る、縄文時代中期～後期の大規模な集落跡です。多数の円形住居跡をはじめ食料を埋めて保存していた貯蔵穴が見つかっています。ほぼ完全な状態の火焔型土器・王冠型土器が出土しています。





原居平遺跡・同出土品

構成文化財 65

信濃川支流の一つ魚野川流域（信濃川中流域）に残る縄文時代中期～後期の集落跡です。輪を描くように連なる多数の竪穴住居跡が縄文集落の特徴をよく表しています。火焔型土器が完全な状態で出土しています。



権現堂山（上・下権現堂山）

構成文化財 67

古生層、火成岩からなる標高997mと896mの山で、南西の山すそに広がる段丘面には、「構成文化財63 布場上ノ原遺跡・同出土品」をはじめとする多くの縄文遺跡が立地しています。

魚野川

構成文化財 66

三国山脈を源とする全長66.7kmの信濃川支流の代表的な川です。豊富な水量がもたらすことで形成された段丘面に、多くの縄文時代の集落跡が残ります。鮭漁も盛んに行われていたことから、縄文時代から恵み豊かな母なる川だったと考えられます。





黒姫洞窟遺跡・同出土品

構成文化財 61

世界最古級の土器を作り始めたころの洞窟遺跡で、縄文時代草創期から弥生時代に至るまで、1万年以上に渡り人々が暮らしてきた痕跡が残っています。特に、新潟県内では最古とされるサケ科の骨や、アスファルトが付着した弥生時代の矢じりなど、貴重な資料が出土しています。



構成文化財
展示施設



守門民俗文化財館

目黒邸に併設された施設で、考古資料では「構成文化財No.64 正安寺遺跡・同出土品」の火焔型土器が展示されています。また、江戸時代初期からの古文書、豪雪地ならではの生活用品や民具、農具など。往時の暮らしを垣間見ることができる1万点にも及ぶ資料が、雪国文化を今に伝えています。

所 魚沼市須原892　開 9:00～16:00　休 年末年始
料 大人（高校生以上）500円、小人（小中学生）100円
※料金は目黒邸、民俗文化財館、目黒邸資料館とセット
問 025-797-3220

雪と水と森が創り出した浪漫に触れる。

川のささやき、風の薫り、草木の温もり。
太古から変わらぬ自然に身を委ね、育まれてきた文化の営みを五感で楽しむ。
ドキドキとワクワクに触れる、時間旅行が待っている。





周辺の
文化遺産・
観光施設

目黒邸（国重要文化財）

近隣の村をまとめる村役人の一つ割元庄屋を務めた目黒家の屋敷で、1797（寛政9）年に建築されました。豪雪に耐える二重梁の構造や、桁行16間（約29m）、梁間6間（約10m）という見事な造りは、見応え十分。風情ある佇まいは、映画の舞台としても使われています。

所 魚沼市須原892　開 9:00～16:00　休 年末年始
料 大人（高校生以上）500円、小人（小中学生）100円
※料金は目黒邸、民俗文化財館、目黒邸資料館とセット　問 025-797-3220





西福寺開山堂

石川雲蝶彫刻

見る者をひきつける作品を数多く手掛けた江戸時代末期の木彫りの名工、石川雲蝶。日本のミケランジェロとも称される雲蝶の作品は、13年の歳月をかけ施した欄間などの作品群が目をひく永林寺、堂内の天井一面に彫られた大作に息をのむ西福寺開山堂で観賞できます。

問 025-792-7300（魚沼市観光協会）



奥只見湖

貯水量6億tを超える、日本屈指の巨大人造湖。江戸時代には銀が採掘されていたことから「銀山湖」とも呼ばれました。5月下旬～11月上旬までは遊覧船も運航。特に船上から眺める秘境奥只見の紅葉は格別です。また、尾瀬口への定期船もあり、湖を渡って尾瀬への日帰りハイクも楽しめます。

問 025-792-7300（魚沼市観光協会）





手仕事手ほどき館（登録有形文化財）

江戸時代末期に建てられた古民家をリノベーション。さまざまな田舎体験ができる農家民宿で、魚沼の地ならではのスローライフが体験できます。囲炉裏を囲んで味わう山菜や野菜を使った郷土料理も格別です。

所 魚沼市大栃山183　問 025-798-4701
※詳細は公式HPをご覧ください。
http://www.kazekozou.org/

縄文人も雪合戦を楽しんだ…かも!?



小出国際雪合戦大会

雪合戦発祥の地とされる魚沼市（小出地区）で行われる国際イベント。雪玉を相手チームに当てるという勝敗の他にも、コスチュームやパフォーマンスも審査の対象になります。大人も子供も雪上で熱い戦いを繰り広げます。

所 魚沼市干溝1848-1
（小出郷文化会館響きの森公園 雪のコロシアム）
問 025-792-9754（小出雪まつり実行委員会）

魚沼のメルクマール越後三山と16万株の芝桜!

魚沼芝桜まつり

例年5月初旬から中旬に見頃を迎える時期に開催されます。大地を埋めるピンクの絨毯と、展望台から望む越後三山との共演は、まさにフォトジェニックな光景。



所 魚沼市根小屋5544-1（奥只見レクリエーション都市公園「根小屋 花と緑と雪の里」）
問 025-780-4560（むつみグループ）

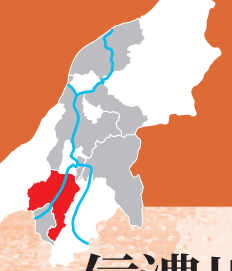
日本一のお米の里!



魚沼産コシヒカリ

豪雪がもたらすミネラル豊富な雪解け水と、魚野川・破間川によって上流から運ばれた肥沃な土壌、さらに、山間地特有の昼夜の温度差が本当においしいお米を作り出します。

問 025-792-7300（魚沼市観光協会）



「なんだ、コレは！」縄文めぐり

十日町市

おもな構成文化財

信濃川流域屈指の縄文GINZA！国宝「雪炎（ゆきほむら）」の圧倒的な存在感。

すでに縄文時代前期から大集落が営まれ、縄文遺跡の密度は非常に高い。
特に雪深いこの地は、雪の中でこそ成熟していった縄文文化を垣間見ることができる。
雪のクニで、探求のドキドキはとまらない。



信濃川上流域縄文時代草創期遺跡群出土品

構成文化財 3

信濃川上流域は、世界最古級の土器が作られ始めたころの遺跡が密集する地。千溝遺跡、卯ノ木南遺跡から出土した土器の中には、草創期の特徴である底の尖ったカタチが見られます。火焔型土器の時代からさかのぼること約1万年前の土器には、縄を転がしたような模様が付いています。

笹山遺跡出土品

構成文化財 11

大規模集落から、火焔型土器、王冠型土器、石器類、土偶などが多数出土。信濃川上流域の火焔型土器文化の特徴をよく示している資料です。火焔型土器「縄文雪炎」に代表される出土品群は、新潟県初、縄文土器では国内初の国宝に指定。





清津峡

構成文化財 42

信濃川と支流清津川が造り出した壮大な景観。川を挟んで岸壁が切り立つV字型の大渓谷は、まさに縄文時代以来の原風景。日本三大渓谷の一つに数えられます。渓谷トンネルから眺める柱状節理の地形は、手付かずの自然そのままで、一帯は学術資料の宝庫ともなっています。

ⓒ(一社)十日町市観光協会



美人林

構成文化財 49

信濃川上流に残る、縄文の佇まいが感じられるブナ林。昭和初期に一度、伐採されたブナの木々が、再びいっせいに伸びた姿がスラリと美しいことから、いつしかそう呼ばれるようになりました。新緑や紅葉のシーズンはもちろん、雪をまとった時季もまた美しい表情を見せてくれます。

田代の七ツ釜

構成文化財 41

苗場山系から発する信濃川支流の渓流に点在する、7つの滝つぼです。縄文時代を彷彿とさせる絶景は、左岸が縦の柱状節理、右岸は横の柱状節理という珍しい地形で、約1kmの間に滝や淵が連続しています。





笹山遺跡

構成文化財 27

縄文時代中期前葉から後期前葉まで、約1000年にわたって存在していた大きな縄文ムラの跡。祭祀の広場を囲んで竪穴住居などが環状もしくは馬蹄形に並ぶ、信濃川上流域の典型的な縄文集落です。火焔型土器が作られた当時の竪穴住居が復元され、縄文時代の佇まいを感じられます。



十日町市博物館

十日町地方の生活・文化を育んできた、「雪と織物と信濃川」をテーマにした博物館。1999年に新潟県初、縄文土器では国内初の国宝に指定された火焔型土器を含む「構成文化財No.11 笹山遺跡出土品」の存在感は圧巻。「同No.55 川漁関係資料」や重要文化財の「越後縮の紡績用具及び関連資料」「十日町の積雪期用具」も必見です。

所 十日町市西本町1　開 9:00～17:00（入館は16:30まで）
休 月曜日、祝日の翌日、年末年始
料 300円（団体250円・小中学生以下無料）
問 025-757-5531







構成文化財
展示施設

雪から生まれた文化やアートを訪ねて。

世界でも最たる降雪地には、雪に磨かれた生活・文化・芸術がある。
国宝土器も、壮大なイベントも、みんな雪のまち。

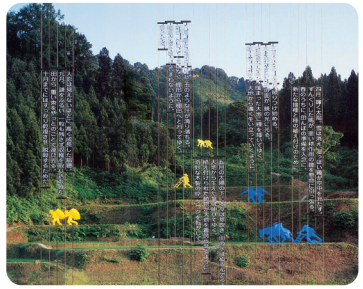
松之山郷民俗資料館

100年ほど前の古民家を移築した資料館です。火焔型土器を生んだ信濃川流域の雪国文化、その雪国ならではの生活用具や農具、考古資料では縄文後期の西之前遺跡出土品などを展示。

所 十日町市松之山湯山264　開9:00～16:00
休 火曜日、水曜日、
　冬季積雪期間（11月中旬～4月下旬）
料 一般（高校生以上）200円、中学生以下無料
問 025-596-2041



周辺の
文化遺産・
観光施設



イリヤ＆エミリア・カバコフ「棚田」（Photo by ANZAI）



草間彌生「花咲ける妻有」（Photo by Osamu Nakamura）

「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2018」

（2018年7月末～9月中旬開催予定）

「大地の芸術祭の里　越後妻有2018冬―SNOWART」

（2018年2～3月開催）

越後妻有地域の広大なエリアを舞台に、3年に一度開催されている世界最大級の国際芸術祭「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ」。また、2017年より「SNOWART（スノワート）」と題し、地域特性が最もよく表れる冬期も開催。今後連続展開され、グリーンシーズンとホワイトシーズンで「大地の芸術祭」を楽しむことができます。

問 025-761-7767（「大地の芸術祭の里」総合案内所）



原広司＋アトリエ・ファイ建築研究所
「越後妻有里山現代美術館［キナーレ］」
（Photo by Osamu Nakamura）





道の駅　クロステン十日町

織物のまち十日町らしい絹織物の工芸品、地元産の米や酒、新鮮な農産物がそろっています。雪国の地場野菜と郷土料理を気軽に楽しめるカフェレストラン、和装工芸品のセレクトショップも充実。外壁を飾る、写真家・滋澤雅人氏撮影による国宝火焔型土器の巨大パネル（7×5m）はインパクト大です。

所 十日町市本町六の一丁目71番地26　問 025-757-2323

雪の幻想舞台！ 巨大雪像に感動



十日町雪まつり

現代雪まつり発祥の地で、毎年2月中旬に盛大に開催される日本三大雪まつりの一つ。メイン会場の雪上カーニバルでは、雪の巨大ステージでのミュージックライブや華麗なきものショーなど、音と光の幻想的な世界が繰り広げられます。なかでもフィナーレを飾る、色鮮やかな雪上花火は圧巻です。

問 025-757-3100（十日町雪まつり実行委員会事務局）

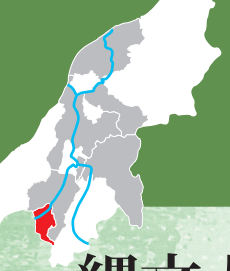
大好き縄文！ 縄文の息吹を感じる！



笹山じょうもん市

笹山遺跡から出土した火焔型土器などが国宝に指定されたことを記念し始まった縄文イベント。縄文パフォーマンス大会、歌と踊りのステージ、縄文食やアクセサリー作りなど、縄文ファンならずとも楽しめるお祭りです。

所 十日町市中条乙3081-2（笹山縄文広場・笹山縄文館）
問 025-752-2748（NPO笹山縄文の里、中条地区公民館）



「なんだ、コレは！」縄文めぐり

津南町

おもな構成文化財

縄文人が選んだ豊かな自然環境は信濃川の河岸段丘にあった。

苗場山麓の隆起と信濃川の浸食がつくった、壮大な大地の造形。
日本最大スケールの河岸段丘に、雪解けの清冽な水が湧き、森が繁り、生きものが棲みつく。
縄文時代と変わらない自然との出合いにドキドキ。



堂平遺跡出土品

構成文化財 18

縄文時代中期中葉から後葉が中心の堂平遺跡からは、残存状況のよい竪穴住居がたくさん見つかっています。火焔型土器・王冠型土器が、ほぼ完全な状態で出土、信濃川上流域を代表する資料となっています。また、群馬県から長野県、さらには東北地方の系統の土器群も含まれ、広範囲にわたる地域との交流がうかがえます。

構成文化財 40

河岸段丘群

およそ40万年という気の遠くなるような時間をかけて、信濃川と大地とで形成された何段もの階段状の地形が河岸段丘です。湧き水も点在する河岸段丘の地勢環境を舞台に、縄文文化が展開しました。日本最大級の津南の河岸段丘群を選んで人が集まり、大規模集落になり、生活の中で火焔型土器が作られたのでした。







龍ヶ窪

構成文化財 43

河岸段丘上の標高450mに、こんこんと水が湧き出ている龍ヶ窪。周辺にはブナ、ミズナラ、ホオノキなどが鬱蒼と茂り、近接する縄文遺跡もあいまって、まるで縄文時代からの原風景のようです。豪雪からの恵みの豊富な湧き水は毎分30トン湧出します。真夏でも7℃の水が1日一回は入れ替わるため、池の水は常に清冽で透明です。

沖ノ原遺跡出土品

構成文化財 20

縄文時代中期の沖ノ原遺跡は、中央に広場を持つ環状集落で、火焔型土器をはじめ、土器や石器類、土偶、クッキー状炭化物などが出土しています。縄文人の食生活や精神文化などを伝える、貴重な出土資料は1500点以上。

秋山郷

構成文化財 51

信濃川の支流、中津川流域に山村が点在する秘境。新潟県津南町と長野県栄村にまたがる秋山郷には、現在の集落と同じ場所に縄文ムラがありました。縄文人の目に映ったであろう美しい自然景観は今も変わりません。また、江戸時代の文人・鈴木牧之著『秋山記行』に記された豪雪地の文化・風習なども、受け継がれています。





上野遺跡・同出土品

構成文化財 31

縄文時代中期の上野遺跡の出土品といえば、竪穴住居と大型の中空土偶。縄文時代中期の土偶は、粘土の塊で作られた中実土偶が一般的ですが、この土偶はふくらんだお腹を中心に中空状になっています。妊婦の土偶を作り、安産の願いを込めてわざと割ったかも？縄文人の精神文化が垣間見えるようです。



農と縄文の体験実習館　なじょもん

自然と共生していた縄文人。その哲学と生活の知恵を学べる施設です。縄文生活や民俗、自然など、四季を通してさまざまな体験プログラムを実施しています。初期農業の開始は弥生時代以前の縄文時代だったことがわかりつつあるため、農に関する体験学習も充実しています。

所 中魚沼郡津南町大字下船渡乙835　開 9:00～17:00
休 月曜日（休日の場合は翌日休）、年末年始（12/28～1/4）
料 入館無料（体験実習参加者は実習料が必要）　問 025-765-5511





構成文化財
展示施設

雪の深さに、暮らしの深さが息づいている。

縄文生活を育んだ自然のフトコロで、本当の豊かさを楽しむ。
厳しく、優しく、深い、雪国文化との出合い。



津南町歴史民俗資料館

豪雪地の自然環境が背景にあった津南の歴史文化。その一つが縄文文化、もう一つが縄文伝統をベースにした山住み民俗です。考古資料では「構成文化財No.18 堂平遺跡出土品」の火焔型土器、「同No.20 沖ノ原遺跡出土品」の土器群など。民俗資料は、「同No.50 秋山郷周辺の山村生産具」などが展示されています。

所 中魚沼郡津南町大字深見乙827（船山）　開 9:00～16:30
休 月曜日（休日の場合は翌日休）、冬期間（12/28～3/10）
料 大人210円、未成年・学生100円　問 025-765-2882





見倉橋

苗場山麓ジオパーク内にある見倉集落と対岸の結束集落をつなぐ吊り橋で、新潟の橋50選の一つ。橋から眺めるエメラルドグリーンの中津川、森の新緑や紅葉の美しさは圧巻です。景勝地として、映画やドラマのロケ地にも利用されています。

問 025-765-5585（津南町観光協会）



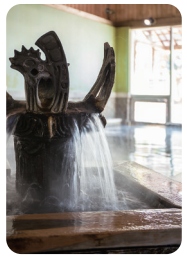
周辺の
文化遺産・
観光施設

見倉の大栃

苗場山麓ジオパーク内のトチノキの原生林は、縄文人が森と生きていた時代もこんな風景だったのかと、五感を通して感じられるスポットです。特に原生林の豊かさを象徴する巨木「大トチノキ」は精霊を宿しているような神々しさがあり、森の巨人たち百選の一つです。

問 025-765-5585（津南町観光協会）





竜ヶ窪温泉　竜神の館・縄文の湯

全国名水百選・龍ヶ窪の近くにある日帰り温泉施設。塩分量が多い泉質は、湯冷めしにくい湯と評判。鎮守の森をイメージした露天の木風呂「縄文の湯」の湯口は、火焔型土器のカタチ。豊かにあふれ出る湯に浸かり、縄文気分を楽しんでみませんか。

所 中魚沼郡津南町大字谷内7031　問 025-765-5888
※詳細は公式HPをご覧ください。
http://www.ryugakubo.com/

見どころ！ ふり向けば縄文遺跡！



沖ノ原ひまわり畑

広大な畑に、夏の太陽をあびて咲き誇る姿はまるで〝ひまわりの海〟！　感動的な風景の隣りには、信濃川上流の縄文時代を代表する、環状集落跡の沖ノ原遺跡があります。ひまわり畑の中に立ち、ふり向けば、そこには縄文人の暮らした風景が…。

問 025-765-5585（津南町観光協会）

縄文デザイン！ やっぱりこだわりたいさりげなく縄文風味

お菓子いろいろ



火焔型土器の焼印がうれしい、優しい甘さの洋風せんべい。手軽なお土産に最適です。

問 025-765-4703
（就労継続支援B型 すみれ工房）



竪穴住居の床のカタチをモチーフに、まちのお菓子屋さんが焼くチェリーダマンドはその名も「沖の原遺跡」。真ん中が炉で、周りは柱の穴です。

問 025-765-2053（松屋）

一万年を超える体験ワールド

ドキドキ体験プログラム

土や石の感触。森の匂い。燃える火の熱さ。雪の深さと冷たさ。
縄文人が点々とムラを築いていた「信濃川火焔街道」で縄文体験！
五感を駆使して縄文をより身近に感じてみよう。



縄文人になりきろう

アンギン

「アンギン」は、山野に自生するカラムシなどの植物繊維を利用した布で、現代の「衣」の源流とされます。アンギンが日本で初めて発見された信濃川火焔街道で、縄文時代から続く編み物の技術を体験。

体験可能な主な施設

■農と縄文の体験実習館 なじょもん　TEL.025-765-5511
■史跡古津八幡山 弥生の丘展示館　TEL.0250-21-4133



勾玉づくり

古墳時代に作られた霊力の証「勾玉」。その原形は縄文時代にすでにあり「縄文勾玉」と呼ばれています。祈りを込めながら石を削ったり、磨いたり。縄文時代のお守りでアクセサリーにもなる人気のメニュー。

体験可能な主な施設

■農と縄文の体験実習館 なじょもん　TEL.025-765-5511
■新潟市文化財センター（まいぶんポート）　TEL.025-378-0480
■史跡古津八幡山 弥生の丘展示館　TEL.0250-21-4133



土器づくり

子どもの夏休みの課題にも最適なドキドキ体験から、複数回かけて行われる大人向けの上級編まで。他にも土偶や縄文楽器の土笛・土鈴づくりも体験できます。

体験可能な主な施設

■農と縄文の体験実習館 なじょもん　TEL.025-765-5511
■長岡市馬高縄文館　TEL.0258-46-0601
■新潟市文化財センター（まいぶんポート）
TEL.025-378-0480
■史跡古津八幡山 弥生の丘展示館　TEL.0250-21-4133

感じる縄文。



縄文生活

火起こし、弓矢づくり、土器づくりなど、縄文時代の日常を自然豊かなフィールドで体験。土器で料理する縄文鍋、竪穴住居の中で炉を囲み過ごす体験で、はるか遠い記憶がよみがえるかも!?

体験可能な主な施設

■農と縄文の体験実習館 なじょもん
TEL.025-765-5511



冬の自然観察

縄文の冬を体験しよう

真っ白に覆われた雪原を歩き、森の木々の冬芽や動物の足跡など、雪景色ならではの発見や出合いが盛りだくさん。スノーシューを履いて、縄文人も生活に役立てた自然散策へ出かけましょう。

体験可能な主な施設

■農と縄文の体験実習館 なじょもん　TEL.025-765-5511
■史跡古津八幡山 弥生の丘展示館　TEL.0250-21-4133



冬の縄文人の暮らし体験

縄文人は雪深い冬をどのように過ごしたのか…。雪上での狩り、竪穴住居での火起こしや縄文クッキーづくりなどを通して、縄文時代の暮らしを豪雪地津南町で体験します。

体験可能な主な施設

■農と縄文の体験実習館 なじょもん
TEL.025-765-5511

ドキドキを発掘しよう

発掘体験

実際の遺跡での本格的な発掘体験をはじめ、遺跡を模した現場での擬似体験まで、地中に眠る太古のロマンを掘り起こします。

体験可能な主な施設

■長岡市馬高縄文館　TEL.0258-46-0601
■史跡古津八幡山 弥生の丘展示館
TEL.0250-21-4133

文化遺産カード（全18種類）

信濃川火焔街道（新潟市・三条市・長岡市・十日町市・津南町）に沿って博物館などをめぐり、写真を撮る。撮った写真を窓口に提示すると、レアな「文化遺産カード」がもらえます。

文化遺産カード配布施設

●新潟県立歴史博物館 ●史跡古津八幡山 弥生の丘展示館
●三条市歴史民俗産業資料館 ●三条市下田郷資料館
●長岡市馬高縄文館 ●十日町市博物館
●農と縄文の体験学習館 なじょもん ●津南町歴史民俗資料館

※無くなり次第終了する場合もありますので、早めに入手しましょう。
※全18種類の他、十日町市と津南町にはそれぞれ文化遺産カードがあります。
※撮影対象文化遺産など、詳しい入手方法は
信濃川火焔街道公式ホームページ
をご覧ください。



※体験内容は季節により異なります。
※募集人数に満たない場合は、中止になる場合もあります。予めご了承ください。
※体験内容・料金などは各施設により異なります。詳しくはお問い合わせください。

※掲載の体験写真は「農と縄文の体験実習館 なじょもん（提供）」で行われている体験シーンです。

ミ土器土器（ドキドキ）ミ コレクション

信濃川河口部の新潟市から長野県境の津南町まで、
信濃川火焔街道には火焔型土器を模した
モニュメントが数多く点在。
ドキッとする出合い、ドキッとする驚きの連続に、
ますます縄文熱は燃え上がるはず！
縄文に熱いクニ・新潟で、ドキドキ集めしませんか。



1964年開催
「新潟国体」の炬火台！

火焔型土器をモデルに彫刻家・早川亜美が手掛けた作品。創作当時は土製でしたが、現在は銅製になっています。
■新潟市陸上競技場（新潟市中央区）



我こそ火焔土器なり！

火焔土器出土地点付近にあったものを、馬高縄文館の入口に移転設置したものです。THE・火焔土器といえる威厳を感じます。
■長岡市馬高縄文館（長岡市関原町）



足もとにもドキドキ！

火焔土器と花火、悠久山公園のお城と桜、市の花ツツジ。長岡の魅力が盛り込まれたマンホールの蓋です。
■アオーレ長岡（長岡市大手通1丁目）



信濃川河口部の
土器アート！

新潟市陸上競技場の炬火台と同型の石製彫刻バージョン。昭和大橋の欄干を飾っています。
■昭和大橋（新潟市中央区）



ドキッとする
貫禄オーラ出ています！

目の前にした瞬間、行進曲「威風堂々」第1番が頭の中を駆けめぐる！？その高さ3mという巨大さを誇る与板地域の縄文シンボルです。
■与板河川緑地たちばな公園（長岡市与板町）



ちょっとレアな
「王冠型」です！

火焔型土器が多数を占める中で、唯一といえる王冠型土器モニュメント。新潟県立歴史博物館駐車場付近には、他に2つの火焔型があります。
■新潟県立歴史博物館（長岡市関原町）

※長岡市内には、掲載した以外にも10体のモニュメントを見ることができます。詳細マップは「長岡市馬高縄文館」にて入手できます。ただし、小学校の敷地内は許可なく立ち入ることはできません。



舞い上がる火焔型土器！

三条市長野遺跡、十日町市笹山遺跡、津南町堂平遺跡、長岡市馬高遺跡出土の火焔型土器のイラストと「火焔型土器を東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」の文字を入れた越後名物の六角凧です。
■三条市下田郷資料館（三条市飯田）
■十日町市博物館（十日町市西本町）
■農と縄文の体験実習館なじょもん（津南町大字下船渡）
■長岡市馬高縄文館（長岡市関原町）



岡本太郎に
衝撃を与えた縄文土器！

芸術家・岡本太郎に「なんだ、コレは！」と言わしめた縄文土器。このモニュメントの除幕式には、岡本太郎も参加しました。
■JR長岡駅新幹線コンコース（長岡市城内町）



土器モニュメント第1号か！？

火焔土器発見の地、長岡市で1959（昭和34）年に設置されたモニュメント。木々に囲まれた三叉路で今も静かに佇んでいます。
■長岡市千手2 三叉路付近（長岡市）



信濃川上流域を
締めくくるモニュメント！

沖ノ原遺跡から出土した新潟県指定文化財の火焔型土器がモデル。津南観光物産館の駐車場に設置されています。
■津南観光物産館（津南町大字芦ヶ崎）



津南町の入口でお出迎え！

堂平遺跡から出土した重要文化財の火焔型土器がモデル。十日町市から津南町へ入る、国道117号の清津川のほとりに、日本遺産の看板とともに設置されています。
■国道117号沿いポケットパーク（津南町大字下船渡）

新潟市・三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町

信濃川火焔街道MAP

縄文文化を象徴する火焔型土器は、はるか5000年前に信濃川流域で生み出されました。
新潟市・三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町の周辺は、縄文時代の遺跡の宝庫であり、
各地の博物館や資料館には、国宝・重要文化財を含む貴重な出土品が展示されています。
また、周辺には自然豊かな景勝地をはじめ多数の文化遺産も点在。
信濃川沿いに繋がる火焔街道で、日本遺産の魅力を体感してください。

